

## APB 福井センター武生工場の開所式を開催

次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の開発を行う APB 株式会社（本社：東京都千代田区/代表取締役：堀江英明、以下「APB」）は、全樹脂電池の量産のための第一工場である「APB 福井センター武生工場」（以下、「武生工場」）を設立し、昨年より準備を進めてまいりました。このたび武生工場の稼動開始にともない、本日開所式を執り行いましたのでお知らせいたします。

APB は、全樹脂電池(All Polymer Battery)の製造及び販売を行うスタートアップ企業です。全樹脂電池は、活物質に樹脂被覆を行い、樹脂集電体に塗布することで電極を形成しています。このような独自の製造プロセスにより、従来のリチウムイオン電池よりも工程を短縮することで、製造コスト・リードタイムの削減を実現するとともに、これまでにない高い異常時信頼性とエネルギー密度を実現しています。部品点数が少なく済むバイポーラ積層型で、樹脂で構成しているため、電極の厚膜化が容易に行え、セルの大型化が可能で形状自由度が高いことも特長です。

開所式は、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、規模を大幅に縮小し、感染拡大防止対策を徹底の上、社内関係者中心で執り行いました。式典で挨拶に立った堀江社長は、「福井県越前市において、第一量産工場を本日無事開所できましたこと、ひとえに関係者の方々のお力添えがあったことと、心より感謝致しております。関係者の皆様には、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。」と語りました。また、筆頭株主である三洋化成工業株式会社の安藤社長は、「世界初の全樹脂電池の量産工場の開所ということで、心よりお祝い申し上げます。全樹脂電池はまさにサステナブルでよりよい社会を創造するために欠かせないソリューションです。全樹脂電池を世に広め、事業を発展させるよう今後も支援を行ってまいります。」と祝辞を述べました。



開所式の様子

武生工場は、世界初の全樹脂電池の量産工場となり、従来のリチウムイオン電池工場とは大きく異なる特徴を持ちます。廃液が出ないだけでなく、乾燥工程をはじめとする多くのプロセスを排除することで、使用エネルギーを削減することにも努めるなど、環境保護、保全効率の向上を重視した設計がなされています。

本日の開所式に引き続き、本年10月を予定している本格稼動に移行するべく、準備を進めてまいります。量産開始当初は、特殊用途を中心に生産を実施しますが、上記の高エネルギー密度という特長を生かし、定置用蓄電池や各種モビリティ用途にも対応して生産を拡大させていく所存です。将来的には武生工場を事業拠点として、生産拠点の世界各地への展開も図ってまいります。

#### 【本工場の概要】

名称：APB 福井センター-武生工場

所在地：福井県越前市庄田町

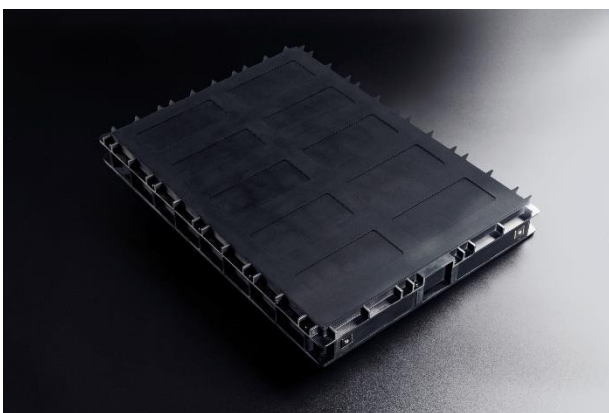
建物概要：敷地面積 約 32,842 m<sup>2</sup>、2階建て、延床面積 約 9,628 m<sup>2</sup>

事業内容：全樹脂電池の設計、製造

操業開始予定：2021年10月頃



APB 福井センター-武生工場外観



新開発の全樹脂電池モジュール  
(寸法：約 550 x 400 x 50mm)



内部構造 (左写真モジュール内部)  
40枚の電池セルをバイポーラ積層し直列に接続

#### 【APB 株式会社 会社概要】



設立 : 2018年10月  
代表者 : 堀江 英明  
事業内容 : リチウムイオン電池の研究開発・製造・販売等  
所在地 : 東京都千代田区神田須田町 1-3-9 PMO 神田万世橋 3階

【本件問い合わせ先】

APB 株式会社 広報担当 : [contact@apb.co.jp](mailto:contact@apb.co.jp)